

知財協・久慈さんの講演、ジャーナリスト・勝見さんの講演 - 2013年11月度A T I S例会 -

11月度の例会で、2つの講演を行いました。

日本知的財産協会の専務理事・久慈直登さんとジャーナリストで、経済・経営分野に詳しい勝見明さんの講演です。

久慈さんの講演は、「けんかの作法」という題でした。WEDGE に連載されている内容のポイントをわかりやすくご紹介していただきました。



「ホンダの攻めの知財戦略」「日本企業の出願戦略の問題点 - 国内多量出願・新興国わずかの出願」「権利行使のときの指揮統一の原則」「敵の優秀な弁護士を味方に」「賄賂がはびこる国での知財裁判の戦い方」「未知なるアフリカでの戦い」「実践を通しての人材育成」「ウィンウィンの解決策なんて存在しない」「背伸びする新興国企業 - 知財侵害の代償 -」、世界を相手にした知財活動でした。

全体を通じて、ホンダの知財活動の底辺には、本田宗一郎の教えが流れているように感じました。

続いて、各国の知財戦略をご説明いただきました。中国、韓国、ヨーロッパ、アメリカについて国毎の特徴をわかりやすく解説いただき、最後に、日本知的財産協会が取り組んでいる「最新テーマ」を紹介いただきました。

パワフルで、全世界を相手にした知財活動に、元気をいただくとともに、実務面でたいへん参考になる講演でした。

勝見さんの講演は、「石ころをダイヤに変える『キュレーション』の力」という題でした。勝見さんは、野中郁次郎氏と12年間、行動をともにし、成功したビジネスモデルを取材して、成功の本質を見抜き、本にしたジャーナリストです。「イノベーションの本質」「イノベーションの作法」「イノベーションの知恵」などが著作になっています。

「キュレーション(curation)」という言葉は、もともと美術館や博物館で企画や展示を担当するキュレーター(curator)に由来します。勝見さんの著作から引用させてもらうと、「既存の作品、資料の意味や価値を問い直し、コンテンツを選択した絞り込み、それらを結びつけて新しい意味や価値を生み出す」こと、これがキュレーションです。

右の図のプロセスを踏みます。

iPAD、高松丸亀町商店街の再開発事業、セブン-イレブンの品揃え改革、ダイソン・エアマルチプライヤー、シブヤ大学など、わかりやすい成功事例を紹介いただき、キュレーションの手法をよく理解することができました。



キュレーションのプロセス

新しいコンセプトで既存の概念の問い直し
(=再定義する)



コンテンツ(要素)を選択・絞り込み・結びつける
(=編集する)



新しい価値、意味、文脈(コンテキスト)を生み出す
(=創発する)

「創発」(emergence) = 異質なものが出会い、相互作用により、その総和より質的に上回る新たな付加価値が生み出されること

(勝見さんの講演資料から拝借)

われわれ子会社の商品開発にはもちろん、親会社の商品開発にも聞かせたい内容でした。これからの仕事に大変参考となる視点、概念を分かりやすく紹介頂きました。

ご興味のある方は、下記の本をご覧ください。

勝見明「石ころをダイヤに変える『キュレーション』の力」

潮出版社